沖ノ鳥島7J1RL記念運用

図1　沖ノ鳥島は東京から南へ約1700km

1976年5月22日～6月7日にJA1HQG有坂氏を団長として展開した沖ノ鳥島DXペディション（7J1RL）は，JARLの50周年記念事業として総力をあげて行ったものです．戦後，沖ノ鳥島が日本の領土であることを国内外に対して宣言したもので，極めて重要な事業でありました．

沖ノ鳥島は，東京からおよそ1700km離れた太平洋上にある日本最南端の島です（**図1**）．5月22日13時，東京湾から出発して，29日朝，ロラン装置（二つのロラン局からの電波を受信して位置を測定するもの）で位置を確認し島を発見しました（**図2**）．また，その近くにおいてJA1YRL/MMと東京のJA1RLが14.330MHzで交信しました．そして，モータ・ボートで下見が行われ，JA1HQG有坂氏，JF1IST藤原氏ほかメンバーによって基地の設営，アンテナ，機器の取り付け作業が行われました．

折しも同30日は，JARL第18回通常総会（富山県高岡市民会館）の開催日で，総会会場内にJA9RLを設置して総会直前に“祝電”のメッセージをアマチュアバンドで送ることができました．その後は，7J1RLをコールするパイルアップの展開となり，徹夜の運用が行われました．

交信は，1.9MHzを含むHF全バンドと，31日に

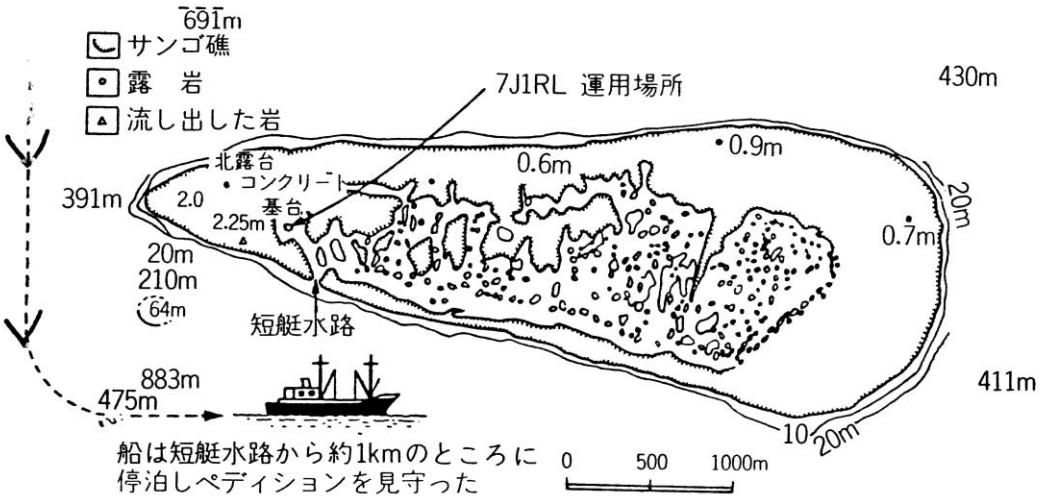

図2　沖ノ鳥島7J1RLの運用場所とリーフの概略